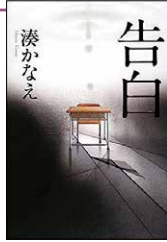


SUPPORTER'S SELECTION

サポーターの皆さんのオススメ本です。本選びの参考にどうぞ♪

豊橋

大原拓弥さん
オススメ



『告白』

湊かなえ 著 (双葉社 2008)

豊図開架 913.6 : Mi39

名図開架 913.6 : Mi39

中学校の女性教師の娘が学校のプールに転落するという事故が発生。しかし、教師は「事故で死んだのではなく、このクラスの生徒に殺された」という衝撃の告白をする。事件の真相が5人の語り手と次々と変わり、解明されていく新しいミステリー小説。情景描写が素晴らしい小説です。小説を読んでいると、女性教師がクラス会で告

白をしたシーンや娘がプールに転落したシーン、衝撃のラストシーンなど様々なシーンが具体的に頭の中に思い浮かんでいきます。また、登場人物が全員元は普通の人だったというも大きな特徴だと思います。「犯人」や「教師」がそれぞれある出来事をきっかけに狂っていくところは見所です。

豊橋

小田七実さん
オススメ



『本を守ろうとする猫の話』

夏川草介 著 (小学館 2017)

祖父を亡くした夏木林太郎は、祖父が残した古書店で引っ越しまでの少しの間、店に立つ。そこに現れた言葉を話すトラネコにたのまれ、「夏木書店の二代目」として本のために様々な人の元へゆき、本を守るために動き出す。実際の問題をテーマとして取り扱いつつも、ファンタジーの世界を舞台に本や本を読むということを見つめ直すおはなしです。本を

愛していた人々の思いと突きつけられている現実。本を守ろうとする猫や林太郎が、対峙する人々にも考えさせられます。本が好きだった人や本が好きなら、おうち時間で本を読むことを始めた方にも読んでいただきたい1冊です。コロナ禍で人との繋がりの重要性が目される現代だからこそ、本が持つ力や本の存在を見直してみませんか。

豊橋

鎌田楓鈴さん
オススメ



『食堂かたつむり』

小川糸 著 (ポプラ社 2008)

豊図開架 913.6 : 024

一晩にして、同棲していた三年の恋人も、働く先も、住む場所も失ってしまった主人公の倫子。そのショックから声も失ってしまった倫子は、ふるさとの「おかん」の元へと向かう。料理が好きで自分の店を持つことが長年の夢であった倫子は、なにもかも失くしたが「私は料理を作ることならでき。」と決心し、「おかん」の所有す

る物置小屋で小さな食堂「かたつむり」を始めることにした。一日一組だけのお客を迎える少し変わった食堂「かたつむり」をつくっていくなかで、倫子は自分と向き合い少しずつ前を向いてゆく。新しく何かを始める勇氣をもらえる一作です。

豊橋

西大聖さん
オススメ



『竜馬がゆく』

司馬遼太郎 著 (文藝春秋 1972)

豊図第2書庫 918.68 : Sh15 : 3~5

名図開架 918.68 : Sh15 : 3~5

舞台が高知県であることから、文章にも土佐弁や昔の言葉が混ざっているため若干読みにくいですが、教科書では触れてこなかった坂本龍馬の意外な一面や、個人的意見として、三巻からの勝海舟との出会いをきっかけに、龍馬の熱意や倒幕を図るシーンが印象的でした。この歴史小説は全8巻と長編小説ですが、高校生以来日本史について

触れていない私でもさっと読破することができました。最後に、この作品は時代の流れは汲み取れていますが、多少脚色されていたり曖昧な部分もいくつか出てくるので、歴史の知識が豊富である人より、知識はないけど歴史を楽しみたい方が向いていると個人的に思いました。

豊橋

鈴木萌日さん
オススメ



『麦本三歩の好きなもの』

住野よる 著 (幻冬舎 2019)

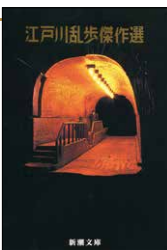
名図開架 913.6 : Su63

主人公の麦本三歩(さんぽ)は少しおちょこちょいで、ぼんやりしている。そして、散歩、寝ること、チーズ蒸しパン、お菓子等、好きなもので溢れている。そんな三歩は、大学図書館で働いている。仕事でミスして先輩に怒られながら、個性豊かな職場の仲間と共に日々仕事をこなしている。そして、休みの日には好きなものをたくさん買

う。このようにこの作品は、好きなものや仕事、日々の生活等、三歩の何気ないことを描いた短編集となっています。好きなものがあるので、日常生活を楽しみ過ぎて過ごすきっかけになることを感じられる1冊となっています。三歩の微笑ましい日常をぜひ読んでみてください。

名古屋

水野花音さん
オススメ



『江戸川乱歩傑作選』

江戸川乱歩 著 (新潮社 2009) [新潮文庫]

名図文庫 913.6:E24

日本の文豪として有名な江戸川乱歩。江戸川乱歩と探偵小説をイメージしたでしょうか。しかし、乱歩の傑作はそればかりではありません。乱歩の得意とするのは、幻想的で怪物的な恐怖とも呼べる芸術なのです。特異な暗号コードによる巧妙なトリックを用いたデビュー作をはじめ、苦痛と快楽と惨劇を描き怪奇趣味の極限を

代表する九編が収録されています。何度読んでも鮮明で禍々しい、でも好奇心を掻き立てられる魅力的な乱歩の世界観を是非体感してください。

名古屋

西村咲良さん
オススメ



『ポッコちゃん』

星新一 著 (新潮社 1987) [新潮文庫]

車図開架 913.6:H92

この星新一の「ポッコちゃん」はSFのようなミステリーのような短編小説集です。5分も経たずにストレス無く1つの物語が読めてしまうので読書が苦手な方や息抜きにもおすすめです。各物語のラストにあっと驚くことやもう一度読み返して物語の中にある仕掛けに気づくこともこの本の楽しみ方です。

星新一のユニークな発想と作風は多くの方に印象を持たせたいと思いますので是非読んでみてください！